

施策体系の再整理

第5回日野市生物多様性地域戦略策定委員会で得られた体系案についての意見を基に、内容の再整理を行った。整理後の取組みの位置づけは以下の表に示すとおりである。

(旧)第5回日野市生物多様性地域戦略策定委員会での体系案

目標	施策(取組み)	整理後の取組みの方向
1.生物多様性の普及啓発 →目標2(2-1)として整理	1-1.カワセミハウスを活用する	2-1
	1-2.親子で参加できるイベントを実施する	
	1-3.「生きものマップ」を活用する	2-2
	1-4.「生きもの検定」を実施する	
2.環境教育の推進 →目標1として整理	2-1.学校教育で生物多様性を学習する	1-1
	2-2.小学校への出前授業を行う	
	2-3.学校で農業体験を実施する	
	2-4.全小学校でのビオトープづくりを推進する	
3.身近な自然体験の場を維持 →目標2(2-2)として整理	3-1.子どもが遊べる自然環境をつくる	2-2
	3-2.身近な自然の地域格差を解消する	
	3-3.日常でできる自然体験の機会をつくる	
4.暮らしに取り入れる生物多様性 →目標2と目標5として整理	4-1.農と共存するまちを形成する	5-1
	4-2.市民農園を推進する	2-2
	4-3.日野産野菜を普及させる	
	4-4.食育で生物多様性の恩恵を理解する	2-1
5.新たな連携やコミュニティの創出 →目標3として整理	5-1.地元市民と転入者の接点をつくる	3-1
	5-2.多摩動物公園と連携する	
	5-3.事業者と連携した活動を展開する	
	5-4.広域の自治体や関連団体と連携する	
6.多様な地形が生む生態系の保全 →目標6として整理	6-1.広域的なエコロジカルネットワークを形成する	6-2
7.多様なみどりの保全 →目標6として整理	6-2.草地環境を創出する	6-1
	7-1.基金を活用して樹林を保全する	
	7-2.住宅地の良質な緑を創出する	
	7-3.公園の質を高めるための維持管理作業	6-2
	7-4.伝統的なみどりを保全する	6-1
	7-5.農地の多面的利用を図る	5-1
8.水と親しむ文化づくり →目標6として整理	7-6.日野らしい貴重な環境を保全する	6-1
	8-1.多摩川・浅川の自然を保全する	
	8-2.湧水の水量確保	
	8-3.生態系豊かな水辺づくり	
	8-4.観光資源として用水を活用する	
9.市民参画による環境の管理・整備 →目標4(4-2)として整理	8-5.浅川の水量の確保を検討・調査する	4-1
	9-1.ボランティアによる里山管理を行う	4-2
	9-2.市民参画による用水の維持管理を行う	
	9-3.生きもの豊かな庭づくりを行う	
	9-4.生きもののための環境をみんなで作る	
	9-5.雑木林の保全体制を確立する	
10.外来種・有害鳥獣の管理 →目標7として整理	10-1.河川に広がる侵略的外来生物の駆除の検討をする	7-1
	10-2.有害鳥獣の被害低減を図る	

(新)再整理した体系案

目標	取組みの方向
1. 生物多様性の大切さをみんなが理解している キーワード: 環境学習	1-1. 日野の未来を創る人の育成
2. 身近な自然体験をみんなが共有している キーワード: 生物多様性の普及啓発、自然体験	2-1. 拠点を活用した生物多様性の情報共有・発信
	2-2. 自然体験活動の推進
3. 生物多様性を通じて新たな人のつながりが創出されている キーワード: 連携、コミュニティづくり	3-1. 多様な主体が連携できる体制構築
4. 水とみどりを次の世代に継承するための環境活動が推進されている キーワード: 環境活動、市民調査、維持管理作業	4-1. 市民調査による生物多様性の実態把握
	4-2. 生物多様性豊かな環境を継承する活動の推進
5. 日野の魅力を活かすための土地利用が推進されている キーワード: 土地利用、農業、観光	5-1. 自然と人が支え合うまちづくり
6. 日野らしい生物多様性が育まれている キーワード: 自然環境の保全、創出、質の向上	6-1. 自然環境の保全
	6-2. 生きものを育む環境の創出と質の向上
7. 健全な生態系が維持されている キーワード: 外来種、有害鳥獣	7-1. 人と生きものが共生するための外来種・有害鳥獣対策

・基本方針ごとの色分け

人々の関心を高める
人と自然の関わりをつくる
日野らしい自然を守り育てる

主体の整理

取組みの方向ごとに関連する主体は、以下の内容で検討を実施した。

取組みの方向	関連する主体							
	市	市民	市民活動団体	事業者	東京都	国・関係自治体	大学等の教育研究機関	多摩動物公園
1-1. 日野の未来を創る人の育成	○	○	○	○	○		○	
2-1. 拠点を活用した生物多様性の情報共有・発信	○	○	○	○			○	
2-2. 自然体験活動の推進	○	○	○	○				
3-1. 多様な主体が連携できる体制構築	○	○	○	○	○	○	○	○
4-1. 市民調査による生物多様性の実態把握	○	○	○	○		○		
4-2. 生物多様性豊かな環境を継承する活動の推進	○	○	○	○				
5-1. 自然と人が支え合うまちづくり	○	○	○	○				
6-1. 自然環境の保全	○	○	○	○	○	○		
6-2. 生きものを育む環境の創出と質の向上	○	○		○	○	○		
7-1. 人と生きものが共生するための外来種・有害鳥獣対策	○	○	○	○	○	○		

施策体系の検討

基本理念と基本方針に基づき、目標と取組みの方向を検討した。それぞれの取組みの方向の位置づけは以下の表のとおりである。取組みの方向については、現況や課題に基づき、各主体の役割や具体的な取組みの検討と整理を行った。

施策体系(案)

基本理念	基本方針	目標	取組みの方向
水とみどりを継承し、人と多様な生きものが共に暮らせるまち	人々の関心を高める	1. 生物多様性の大切さをみんなが理解している 日野市に係るすべての人が生物多様性を理解しており、それぞれが主体的に行動しています	1-1. 日野の未来を創る人の育成 日野市の豊かな生物多様性を多くの人が理解し、大切にする意識を共有できるように、環境学習の体制を整えます
		2. 身近な自然体験をみんなが共有している 生物多様性に関する気づきや行動を実践する場が身近にあり、豊かな自然体験を通じて子どもたちが元気に育っています	2-1. 拠点を活用した生物多様性の情報共有・発信 カワセミハウスを活動の拠点として、生物多様性に関する情報発信や各種イベントを開催します 2-2. 自然体験活動の推進 川遊びや農作業といった身近な自然体験を通じて、生物多様性を理解している「ひのっ子」を育てます
		3. 生物多様性を通じて新たな人のつながりが創出されている 日野市に係るすべての人が、生物多様性を共通の接点として連携し、支え合っています	3-1. 多様な主体が連携できる体制構築 問題解決に向けて、関連する主体がそれぞれの強みを活かして連携し、積極的に新しい体制を構築します
	人と自然の関わりをつくる	4. 水とみどりを次の世代に継承するための環境活動が推進されている 生物多様性の現状を把握し、今ある水とみどりの環境を次の世代に引き継ぐための方策を実践しています	4-1. 市民調査による生物多様性の実態把握 日野市の生きものの現状を市民が主体的に調べ、共有することで、市民と行政が連携して生きものの実態把握を行います 4-2. 生物多様性豊かな環境を継承する活動の推進 用水や雑木林などを適切に維持管理することで、先人から伝わる生物多様性豊かな環境を守り育み、魅力ある日野市の環境を将来の世代に引き継ぎます
		5. 日野の魅力を活かすための土地利用が推進されている 人の暮らしの中に生物多様性豊かな環境が共存し、日野らしい自然を維持するための持続可能な土地利用がなされています	5-1. 自然と人が支え合うまちづくり 用水や水田、崖線緑地などの日野らしい自然環境と、そのような自然により育まれた文化や歴史、産業がバランスよく保たれるまちづくりを行います
	日野らしい自然を守り育てる	6. 日野らしい生物多様性が育まれている 多様な地形と土地利用から生まれた日野市本来の健全な生態系が、将来にわたって維持されています	6-1. 自然環境の保全 多様な生きものが生息・生育する水とみどりの環境を将来にわたって守るために、必要な保全策を実施します 6-2. 生きものを育む環境の創出と質の向上 生きものが生息・生育できる新たな環境を創出するとともに、既存の水とみどりの環境を生きもの目線で見直し、生きものの生息・生育の場としての質を高めます
		7. 健全な生態系が維持されている 日野市に生息・生育する外来種や有害鳥獣が適切に管理されており、在来の生きものにとって健全な生態系が維持され、安心して一次産業が営まれています	7-1. 人と生きものが共生するための外来種・有害鳥獣対策 日野市で問題となっている外来種や有害鳥獣を明らかにし、従来の生態系や農林水産業に悪影響を及ぼさないように対策を実施します

取組みの方向について

人々の関心を高める

目標：1. 生物多様性の大切さをみんなが理解している

取組みの方向：1-1. 日野の未来を創る人の育成

取組みの内容

日野市の豊かな生物多様性を多くの人が理解し、大切にする意識を共有できるように、環境学習の体制を整えます

現況・課題

- ・急激な人口増により、多くの自然環境が開発により失われており、現在も減少傾向にあります
- ・市の豊かな生物多様性がこれ以上失われ、忘れられないためにも、環境学習による自然の理解促進が求められます
- ・学校教育の現場では自然体験を経験した教員が少なく、生物多様性を伝えることのできる人材が不足しています

各主体の役割

<日野市>

- ・日野市の豊かな自然を活かした環境学習の場を提供します
- ・環境学習の研修会を企画、実施し、指導者となりうる地域住民や教員を育成します
- ・（仮称）日野市生きもの検定を創設し、市民の生物多様性に対する理解を深めるきっかけを作ります

<市民>

- ・環境学習や、（仮称）日野市生きもの検定などに積極的に参加し、生物多様性についての理解を深めます
- ・学校などの環境教育に関心を持ち、指導者として関わるなど、積極的に協力します
- ・環境学習に活用できる生物多様性の情報の収集、提供に努めます

<市民活動団体>

- ・日野市の豊かな自然を活かした環境学習に協力します
- ・環境学習の場に指導者として参加し、協力します
- ・市の取り組みに対し、より環境学習の効果が高まるよう助言や提言を行います
- ・活動地域での特徴的な環境学習プログラムを検討、提案します

＜事業者＞

- ・環境学習や、（仮称）日野市生きもの検定などに積極的に参加し、生物多様性についての理解を深めます
- ・CSR 活動として、従業員への環境学習を実施します

＜東京都＞

- ・環境学習リーダー養成講座等により、環境学習を担う人材を育成します

＜大学等の教育研究機関＞

- ・講師派遣や情報提供等により、市民や学校教員等への環境教育に協力します

具体的な取組み

- ・指導者（教員）のための環境学習研修会の実施
 - ・地域住民などの人材活用のための指導員登録制度
 - ・東京都環境学習リーダー養成講座の活用
- 環境学習の推進【担当部署：環境保全課】

《 案 》

市と協議のうえ、担当部署
を検討

- ・日野市の生物多様性を活用した環境学習プログラムの作成
- ・学校で生物多様性を学ぶための教材づくり
- ・地区ごとの自然を活かした学習環境の展開
- ・（仮称）日野市生きもの検定の実施

市が推進する既存の関連計画

【第5次日野市基本構想・基本計画】

- ・208 生きる力を育み、楽しく意欲的に学べる学習環境の創出
- ・502 自然環境の保全

【第2次日野市環境基本計画】

- ・自然度の高いみどりの保全
- ・協働による水辺の保全・活用

【日野市まち・ひと・しごと創生総合戦略】

- ・3-3-1 次代を担う人材の地域での育成

人々の関心を高める

目標：2. 身近な自然体験をみんなが共有している

取組みの方向：2-1. 拠点を活用した生物多様性の情報共有・発信

取組みの内容

カワセミハウスを活動の拠点として、生物多様性に関する情報発信や各種イベントを開催します

現況・課題

- ・日野市には生物多様性に関連する団体が多数ありますが、活動の拠点となり、イベントを開催できる場は少ない状況です
- ・生きものの生息や生態に関する情報は多くが団体や個人で管理されており、広く市民に周知されている状態ではありません
- ・生物多様性に関連する情報を一元管理し、必要に応じて活用できる仕組みづくりが必要です

各主体の役割

<日野市>

- ・日野市の自然に関連する資料の展示、講座を開催することで、市民が日野市の自然に親しみや興味を持つ機会を提供します
- ・環境に関する情報を収集・整理・分析し、市民や事業者などと共有します
- ・市民の環境への活動に対し、場所や情報の提供などの支援を行います

<市民>

- ・自然や生きものを調べたり、学ぶ場として拠点を活用します
- ・市民の持つ生きものの情報を公開・提供します

<市民活動団体>

- ・カワセミハウスを活用して、市民に日野市の生物多様性を伝える場・機会を設けます
- ・市民団体の持つ生きものの情報を公開・提供します

<事業者>

- ・事業所の生物多様性に係る取組み情報を市民に向けて発信します
- ・市や市民による生物多様性の取組みに参加し、協力します

<大学等の教育研究機関>

- ・生物多様性に関する情報や調査・研究成果を提供します
- ・生きもの情報等の整理・発信の仕組みづくりを支援します

具体的な取組み

- ・ ホームページやニュースレターによる生物多様性に関する情報発信
- ・ 生物多様性に関するイベント・展示の企画
- ・ 生物多様性に関する情報の蓄積と一元管理
- ・ カワセミハウスをエコミュージアムとして生物多様性の情報を集積・発信・更新
- ・ 自然や環境についての相談窓口の開設
- ・ 多様な主体間での情報交換・交流の仕組みづくり
→生物多様性に関する普及啓発【担当部署：環境保全課】
- ・ 学校の教育活動との連携

《 案 》

市と協議のうえ、担当部署
を検討

市が推進する既存の関連計画

【第5次日野市基本構想・基本計画】

- ・ 404 郷土資料の継承と活用
- ・ 501 地球環境政策の推進

【第2次日野市環境基本計画】

- ・ みどりに関する普及啓発

【日野市まち・ひと・しごと創生総合戦略】

- ・ 3-3-2 地域で学ぶ、学びあいの環境づくり



人々の関心を高める

目標：2. 身近な自然体験をみんなが共有している

取組みの方向：2-2. 自然体験活動の推進

取組みの内容

川遊びや農作業といった身近な自然体験を通じて、生物多様性を理解している「ひのっ子」を育てます

現況・課題

- ・丘陵地や農地の宅地化、用水の暗渠化など、生きものに触れ合える環境が減少しています
- ・公園の整備は進む一方、自然に近い環境は安全性の問題もあり、子どもにとって遊びにくい場所となっています
- ・農家の数が減少し、身近な農地が失われています

各主体の役割

<日野市>

- ・子供や市民が安全に、かつ主体性をもって地域の自然と触れ合える場を提供します
- ・生物多様性の豊かな恵みと命について市民が体感・学習できる場として、農園づくりを推進します
- ・日常で生態系や生物多様性を実感できる、ビオトープづくりを推進します

<市民>

- ・地域の公園、農場、ビオトープなどを、体験や学習の場として、積極的に利用します

<市民活動団体>

- ・ビオトープや公園の管理について、市民が主体的に維持管理をする体制づくりに努めます
- ・地域の公園、農地、ビオトープなどを、自然体験などのイベントの場として活用します

<事業者>

- ・事業地において、身近な自然環境を保全し、市民の利活用が可能になるよう一般開放に努めます

具体的な取組み

- ・安全に配慮した子供が遊べる環境づくり
- ・学校などでのビオトープづくりの推進
- ・既存のボランティアの体制を活用した、ビオトープや公園の管理体制の構築
- ・市民参加で行う公園等の維持管理活動の推進

→安全に配慮した環境整備、学校ビオトープの整備【担当部署：緑と清流課】

- ・公園施設を活用した自然体験活動の推進
- ・季節ごとの観察会や生きもの調査の企画、実施
- ・工場緑地における、市民参加の生きもの調査

→自然体験活動の推進【担当部署：環境保全課】

《 案 》

市と協議のうえ、担当部署
を検討

- ・農作物の栽培や生きものの飼育体験ができる農業体験農園の整備

- ・地域ぐるみで子供と自然の見回り活動

市が推進する既存の関連計画

【第5次日野市基本構想・基本計画】

- ・202 人のつながりを活かした育てあうまちづくり
- ・203 次世代のひのっ子を育てるまちづくり
- ・208 生きる力を育み、楽しく意欲的に学べる学習環境の創出
- ・502 自然環境の保全
- ・705 農業の振興

【第2次日野市環境基本計画】

- ・水辺に親しむ空間づくり
- ・協働による水辺の保全・活用

【第3次日野市農業振興計画】

- ・（11）地域で農業を支える仕組みづくりの推進
- ・（12）農とふれあう市民交流を深めよう

【日野市観光基本計画】

- ・（1）観光農業の推進

人と自然の関わりをつくる

目標：3. 生物多様性を通じて新たな人のつながりが創出されている

取組みの方向：3-1. 多様な主体が連携できる体制構築

取組みの内容

問題解決に向けて、関連する主体がそれぞれの強みを活かして連携し、積極的に新しい体制を構築します

現況・課題

- ・多摩動物公園は多摩丘陵の豊かな自然に囲まれた動物園であり、市内外から多くの人が訪れる集客力の高い施設です。高い専門性を持ったスタッフにより、野生生物の保全や教育普及活動も積極的に行われています。
- ・日野市には多くの工場事業所が立地しており、関連する事業者は市民や市と連携する取組みを求めています
- ・河川や丘陵などの自然環境の広域的ネットワークを構築するためには、周辺自治体などの関係者とも連携した取組みが不可欠です

各主体の役割

<日野市>

- ・多摩丘陵や三浦丘陵のように広域な緑地や河川流域については、関連自治体と連携し、保全を図るよう努めます
- ・広域な緑地や河川流域の保全活動を通じた生物多様性の啓発活動を、関係自治体と連携し、推進するよう努めます
- ・市民、市民活動団体、事業者との連携にあたり、各主体の役割分担を明確にしたうえで、協力の依頼や、活動の支援施策、仕組みづくりの検討などを推進します
- ・多摩動物公園と連携し、日野市の生きものの保全や調査研究を行います

<市民・市民活動団体>

- ・他主体とともに地域の自然への関わり方を議論し、積極的に課題解決に取り組めます
- ・市や事業者との連携を積極的に図り、多様な主体の取組みに参加するよう努めます

<事業者>

- ・事業所内の緑を地域の自然と一体ととらえ、エコロジカルネットワークに配慮した CSR 活動を検討し、地域住民と連携して活動展開を広げます

<東京都>

- ・都立七生公園など市民の生活に身近な自然を活かして、環境保全活動などを企画し、日野市周辺の市町村との交流の場の提供に努めます

＜関係自治体＞

- ・緑地や河川などの広域な自然環境については、関係自治体間で協力して保全を行うよう努めます

＜大学等の教育研究機関＞

- ・市と連携し、生物多様性の保全に必要な情報や調査・研究成果を提供します

＜多摩動物公園＞

- ・市と連携し、日野市の生きものの保全や調査研究を行います
- ・多摩動物公園をみどりの軸として、多摩丘陵のみどりを周辺と連携して保全します
- ・生物多様性の教育普及活動を推進します

具体的な取組み

- ・広域な緑地や河川流域の保全管理の方針を近隣の関係自治体と協議
- ・広域の自治体や環境団体と連携した、環境保全活動の企画
- ・各地域における課題の把握と役割分担の明確化、共有
- ・市民活動団体や事業者等の活動連絡・情報交換会の開催
- ・多摩動物公園と連携した生きものの保全および教育普及活動

《 案 》

市と協議のうえ、担当部署
を検討

→生きものの生息環境の保全、みどりの保全活動の連携体制づくり【担当部署：環境保全課】

市が推進する既存の関連計画

【第5次日野市基本構想・基本計画】

- ・102 心ふれあうコミュニティづくり
- ・406 公民館での学習活動の支援と施設の充実
- ・502 自然環境の保全
- ・701 将来を見据えた都市環境づくり

【第2次日野市環境基本計画】

- ・自然度の高いみどりの保全
- ・協働によるみどりの保全・創出
- ・協働による水辺の保全・活用

【日野市まち・ひと・しごと創生総合戦略】

- ・3-2-1 様々な主体の参画と連携による地域の活力の創造（地域・世代・活動組織）

【第3次日野市農業振興計画】

- ・（4）農・商・工・観光及び産・学・官・民・金の連携

【日野市観光基本計画】

- ・（2）市民・企業・行政の交流

人と自然の関わりをつくる

目標：4. 水とみどりを次の世代に継承するための環境活動が推進されている

取組みの方向：4-1. 市民調査による生物多様性の実態把握

取組みの内容

日野市の生きものの現状を市民が主体的に調べ、共有することで、市民と行政が連携して生きものの実態把握を行います

現況・課題

- ・日野市の生物多様性の状況は年を追って変化しており、生きものの現状を調べ、生物多様性の実態を定期的に把握する仕組みが必要です
- ・市が管理を行っている用水は日野市水生生物調査で詳細な情報が把握されており、市の自然環境を示す大切な情報となっています
- ・市には多くの環境活動団体が存在し、生きものに詳しい人がたくさんいます
- ・河川は国が管理しており、市が自由に調査を行うことのできない環境となっています

各主体の役割

<日野市>

- ・日野市の動植物について、「ひのいきもの探し隊」などを活用し、市民参加の調査を実施し、現況を把握します
- ・水辺環境について、水質や生きもの調査を継続的に実施し、現況を把握します
- ・生きもの調査によって得られた情報は HP 等に公開し、市民と共有します

<市民>

- ・日野市と市民で行う生きもの調査に積極的に参加します
- ・「ひのいきもの探し隊」などの取組みに、積極的に参加し、情報提供を行います

<市民活動団体>

- ・市民の生きもの調査への参加を促進する、観察会などのイベントを実施します
- ・生きもの調査に参加するとともに、調査についての普及啓発活動に協力します

<事業者>

- ・企業の CSR 活動の一環として「ひのいきもの探し隊」の、生きもの調査に参加し、協力します

<国・関係自治体>

- ・多摩川や多摩丘陵など行政界をまたいで存在する環境について、必要なモニタリング調査等を相互に協力・連携して行います

具体的な取組み

- ・多摩川、浅川での生きもの調査の企画、運営
- ・日野市水生生物調査の継続
- ・ひのいきもの探し隊の運営
- ・生きものマップの作成
- ・生きもの調査ガイドの作成
- ・生きもの探しイベントの開催
- ・調査結果の蓄積、インターネットを活用した調査結果の公開
- 協働による生物多様性の実態把握【担当部署：環境保全課】

《 案 》

市と協議のうえ、担当部署
を検討

市が推進する既存の関連計画

【第5次日野市基本構想・基本計画】

- ・404 郷土資料の継承と活用

【第2次日野市環境基本計画】

- ・自然度の高いみどりの保全
- ・協働によるみどりの保全・創出
- ・水質の保全

人と自然の関わりをつくる

目標：4. 水とみどりを次の世代に継承するための環境活動が推進されている

取組みの方向：4-2. 生物多様性豊かな環境を継承する活動の推進

取組みの内容

用水や雑木林などを適切に維持管理することで、先人から伝わる生物多様性豊かな環境を守り育み、魅力ある日野市の環境を将来の世代に引き継ぎます

現況・課題

- ・ボランティアの高齢化や人手不足により、雑木林の維持管理に手が行き届かなくなりつつあります
- ・水田の減少により、用水が本来の用途で使われなくなっているほか、用水の維持管理を行う担い手も不足しています

各主体の役割

<日野市>

- ・雑木林や用水路など、人の維持管理により保たれてきた環境を維持するための、住民参加の管理体制を構築します
- ・公園、緑地、水路等の維持管理については、地域、学校、農業組合などとの公民協働の体制を構築します
- ・自然環境や生物多様性に配慮した農業に対し、支援を行います
- ・子どもたちが生業としての農業に触れる機会を提供します
- ・水田や用水の多面的機能を積極的に市民に伝えます

<市民>

- ・市の開催する講習会やイベントなどに積極的に参加します
- ・地域の自然の維持管理に積極的に参加、協力します
- ・近隣の雑木林を山菜採りや遊びの場として積極的に利用します
- ・民有地の自然環境の維持管理について、積極的に取り組みます

<市民活動団体>

- ・地域の自然の維持管理について、市や地域住民と協働の体制づくりに努めます
- ・民有地の自然環境の維持管理について、地域住民や事業者と協力体制をつくり、担い手の確保に努めます
- ・新しい人材を組織に積極的に呼び込み、次代を担うメンバーや活動リーダーを育成します

<事業者>

- ・企業の CSR 活動などで、地域の自然の維持管理に積極的に参加します

具体的な取組み

- ・ 雑木林の維持管理
- ・ 用水路の維持管理
- ・ 維持管理の方法についての講習会やイベントなどの企画
- ・ 雑木林や用水管理のボランティア登録制度構築
 - 用水の保全・活用、協働による生物多様性の保全【担当部署：緑と清流課】
- ・ 地域の自然環境を維持管理する組織づくり
 - ボランティアによる維持管理の支援【担当部署：環境保全課】
- ・ 生物多様性に配慮した農法の支援
- ・ 学校での農作業体験学習などの実施

市が推進する既存の関連計画

【第 5 次日野市基本構想・基本計画】

- ・ 502 自然環境の保全

【第 2 次日野市環境基本計画】

- ・ 自然度の高いみどりの保全
- ・ まちなかのみどりの創出・保全
- ・ 健全な水循環の構築
- ・ 協働による水辺の保全・活用

人と自然の関わりをつくる

目標：5. 日野の魅力を活かすための土地利用が推進されている

取組みの方向：5-1. 自然と人が支え合うまちづくり

取組みの内容

用水や水田、崖線緑地などの日野らしい自然環境と、そのような自然により育まれた文化や歴史、産業がバランスよく保たれるまちづくりを行います

現況・課題

- ・豊かな水の恩恵を受け、昔は多摩の米蔵と呼ばれるぐらい稲作が盛んに行われていましたが、今では水田は減少の一途をたどっています
- ・昭和初期は台地一面に桑畑が広がっていましたが、今ではほとんどが失われています
- ・丘陵地は高度経済成長期の人口増加を理由として、大規模に宅地開発が行われ、現在も土地区画整理事業により宅地化が進行しています
- ・日野らしい自然環境や景観を将来に残すためには、魅力ある日野であり続けるための生物多様性に配慮した土地利用の推進が必要です

各主体の役割

<日野市>

- ・水とみどりの景観が身近に残るように、水田や畑などの農地保全を行います
- ・日野の特産品栽培を推奨し、近郊農業である利点を活かしてPRを図ります
- ・市内の低地に張り巡らされた用水を観光資源として活用するため、環境整備を行います
- ・丘陵地での新たな宅地開発を制限し、既存の市街地の再開発や効率化によりまちを持続的に発展させます

<市民>

- ・農地や水田、雑木林といった日野らしい身近な自然を健全に保つための維持管理に協力します
- ・地元で採れた作物を積極的に利用するなど、地産地消に努めます
- ・地域の自然や文化を子どもたちへ積極的に伝え、受け継ぐように努めます

<市民活動団体>

- ・市の生物多様性の魅力を多くの人に伝える啓発活動を推進します
- ・エコツーリズムやグリーンツーリズムを企画し、市内外問わず多くの人が里地里山の価値を体験できるようなイベントを企画、実施します
- ・地域の自然や文化などの魅力を広く発信することで、多くの人が訪れ、交流が生まれる地域を目指します

＜事業者＞

- ・市のこれまでの土地利用に配慮した緑地計画を行い、周辺とのエコロジカルネットワーク構築に努めます

具体的な取組み

- ・用水周辺の親水化、環境整備
- ・櫛ぐねや生垣の保全推進
- ・事業所の在来種緑化推進
- ・地域の自然環境を維持管理する組織づくり
→緑地や水辺の保全活動の推進【担当部署：緑と清流課】
- ・丘陵地の開発抑制
- ・都心に向けての日野産農作物の PR 推進
- ・用水の観光資源化
- ・日野産農作物の学校給食での利用
- ・地域の伝統文化に関する課外活動の推進

《 案 》

市と協議のうえ、担当部署
を検討

市が推進する既存の関連計画

【第 5 次日野市基本構想・基本計画】

- ・ 502 自然環境の保全
- ・ 701 将来を見据えた都市環境づくり
- ・ 705 農業の振興
- ・ 706 自然と文化、新選組を活かした観光産業の振興

【第 2 次日野市環境基本計画】

- ・自然度の高いみどりの保全
- ・農地の保全と活用
- ・健全な水循環の構築

【第 3 次日野市農業振興計画】

- ・（1）都市農地の多面的機能を活かし農地を守るまちづくりを進めよう
- ・（8）地産地消を推進しよう

【日野市観光基本計画】

- ・（1）歴史と自然を活かした観光まちづくり ②自然観光資源の保全による持続的活用

【日野市住宅マスタープラン】

- ・ 2-4 農ある住環境の形成
- ・ 2-7 地産地消の創出や緑化推進等、低炭素な住宅市街地の形成

日野らしい自然を守り育てる

目標：6. 日野らしい生物多様性が育まれている

取組みの方向：6-1. 自然環境の保全

取組みの内容

多様な生きものが生息・生育する水とみどりの環境を将来にわたって守るために、必要な保全策を実施します

現況・課題

- ・宅地化により丘陵地の樹林が減少しており、保全策が求められています
- ・まとまった草地環境は河川にのみ残されている状況であり、草地環境に生息する生きもののすめる環境の多くが失われています
- ・水田が減少し、用水は本来の用途で利用されなくなりました。用水にすむ生きものを守るためには、用水の新しい利活用や水田保全が必要です

各主体の役割

<日野市>

- ・地域の自然における生きものの利用状況や管理状況などの情報収集を行い、市民に提供することで、各主体が自発的に活動できるように努めます
- ・緑地の保全のために、私有地の公有化や所有者との協定などを通じた地域一体となった保全の取組みを推進します
- ・田んぼのオーナー制度など、水田の維持管理に農業者以外の人を取り込むような、仕組みをつくりまします

<市民>

- ・ゴミや排水を減らすなど、生きものの生息・生育地を汚さないように、身近な自然を大切にする生活を心がけます
- ・水田など、農地の活用を通じて、里地里山の保全管理に積極的に参加します

<市民活動団体>

- ・地域の自然における生きものの利用状況や管理状況などの情報収集、提供を行います。
- ・雑木林や緑地の維持管理につながるイベントを企画、実施し、普及啓発活動に協力します。

<事業者>

- ・事業所の敷地内の緑地を地域のみどりと繋がりを持つような維持管理に努めます

<東京都>

- ・都が管理する緑地や公園において、市と共同で草地環境の保全や生きもの調査などを実施

し、生物多様性を高める活動を推進します

<国>

- ・多摩川や浅川の河川整備において、地域の自然や文化に配慮した整備事業を実施し、生物多様性を高める河川管理を推進します

具体的な取組み

- ・哺乳類、猛禽類を保全するための広域な自然の保全

- ・樹林の保全

- ・民有緑地の公有化

- ・浅川の水量確保（調査・検討）

- ・日野市の生物多様性や歴史に配慮した多自然川づくり

→丘陵地等の保全、生きものの生息環境の保全【担当部署：緑と清流課】

- ・水田の保全

《 案 》

市と協議のうえ、担当部署
を検討

市が推進する既存の関連計画

【第5次日野市基本構想・基本計画】

- ・502 自然環境の保全

【第2次日野市環境基本計画】

- ・自然度の高いみどりの保全
- ・環境に配慮した農業の推進

【第3次日野市農業振興計画】

- ・（2）日野の貴重な財産である水田・用水を市民と農業者で守っていこう

日野らしい自然を守り育てる

目標：6. 日野らしい生物多様性が育まれている

取組みの方向：6-2. 生きものを育む環境の創出と質の向上

取組みの内容

生きものが生息・生育できる新たな環境を創出するとともに、既存の水とみどりの環境を生きもの目線で見直し、生きものの生息・生育の場としての質を高めます

現況・課題

- ・丘陵地は宅地化が進行し、みどりの分断が発生しています
- ・河川は重要なみどりの軸であり、周辺環境は河川とのつながりを意識した整備を行うことで、生きものの往来を生み出すことができます
- ・公園は利用者の目線で常にきれいな状態が維持されていますが、生きものの生態に配慮した維持管理手法を加えることで、既存緑地でも生物多様性の向上が期待できます

各主体の役割

<日野市>

- ・市内の各地区における特性や資源を整理し、人と自然が持続的に共存できる地域づくりの方向性を決め、共有します
- ・市民や市民活動団体による生きもののすめる環境づくりを支援します
- ・生きものの生息環境として、より質を高めるような、地域づくりに努めます
- ・地域の孤立した緑地を近隣の緑地につなげ、緑のネットワーク化を推進します

<市民>

- ・耕作放棄地の復元など、生きものの生息環境としての質の向上に努めます
- ・自宅の庭などの緑を生きものが利用できる環境として、維持管理します

<事業者>

- ・事業所内のみどりを保全、創出し、生物多様性を高めるような維持管理に努めます。

<東京都>

- ・程久保川や谷地川などの流域の自治体と連携し、流域全体で生きものの生息環境が保全されるような整備計画を策定し、関係自治体の取組みを支援します
- ・都立七生公園や東光寺緑地保全地域などにおいて、生きもの目線を取り入れた整備や維持管理をすることによる生きものの生息環境としての価値を高めます

<国>

- ・多摩川や浅川などの流域の自治体や東京都と連携し、流域全体で生きものの生息環境が保

全されるように、関係自治体の取組みを支援します

具体的な取組み

- ・草地環境の創出
- ・生きもののネットワークを意識した環境整備
- ・生きものの生息・生育に配慮した維持管理作業
- ・民有地の緑化に対する支援活動
- 生きものの生息環境の保全【担当部署：緑と清流課】
- ・耕作放棄地のビオトープ化

《 案 》

市と協議のうえ、担当部署
を検討

市が推進する既存の関連計画

【第5次日野市基本構想・基本計画】

- ・502 自然環境の保全
- ・701 将来を見据えた都市環境づくり

【第2次日野市環境基本計画】

- ・自然度の高いみどりの保全
- ・健全な水循環の構築
- ・農地の保全と活用

日野らしい自然を守り育てる

目標：7. 健全な生態系が維持されている

取組みの方向：7-1. 人と生きものが共生するための外来種・有害鳥獣対策

取組みの内容

日野市で問題となっている外来種や有害鳥獣を明らかにし、従来の生態系や農林水産業に悪影響を及ぼさないように対策を実施します

現況・課題

- ・シナダレスズメガヤなど河川敷に繁茂する植物や、ガビチョウなど樹林環境に定着した鳥類など、従来の生態系に影響を及ぼすおそれのある外来種の存在が顕在化しています
- ・外来種や有害鳥獣による生態系や地域の産業への影響とその広がりについては情報が限定的であり、対策を検討するための情報収集が必要です
- ・アカミミガメやブラックバスなど人為的に放流されたことによって定着した外来種もいるため、飼育している生きものを放さないための普及啓発が必要です

各主体の役割

<日野市>

- ・現在の日野市における外来種の生息状況と被害状況の現状把握を行い、侵略的外来種の選定を行います
- ・外来種情報を収集、整理、発信し、市民や事業者と共有します
- ・生態系に与える影響が大きく、駆除の優先度の高い侵略的外来種から駆除作業を行います
- ・外来種の被害防止対策や捕獲方法の講習会の開催や、捕獲道具の貸出や処理の支援、相談窓口の開設など、市民の自発的な対策、駆除作業を支援します
- ・外来種の影響について、啓発活動を行い、個体の増加・拡散、新たな外来種の定着防止に努めます
- ・有害鳥獣による農業・水産業への影響を把握し、必要に応じた対策を進めます

<市民>

- ・外来種や有害鳥獣の問題に関心を持ち、啓発活動や講習会などに積極的に参加し、理解を深めます
- ・飼育している生きものを野外に放たないようにします
- ・有害鳥獣による被害対策を地域ぐるみで実施します

<市民活動団体>

- ・外来種問題についてのイベントを企画し、市民への普及啓発活動に協力します
- ・外来種の生息情報や被害情報の収集、提供に努めます

＜事業者＞

- ・事業活動を通じた外来種の拡散リスクを明らかにし、個体の増加・拡散、新たな外来種の定着防止に努めます

＜東京都＞

- ・アライグマやハクビシンなどの外来種についての防除実施計画に基づいて、日野市の取組みを支援します
- ・東京都全体における外来種の増加、拡大防止の対策を実施し、市と連携して被害の低減を図ります
- ・東京都全域における外来種や有害鳥獣の生息状況や被害状況についての情報を、収集・整理し、市町村と共有します
- ・鳥獣保護管理事業計画を活用し、有害鳥獣の被害防止の取組みや体制づくりを支援します

＜国＞

- ・外来種被害防止行動計画などの計画を適切に運用します

具体的な取組み

- ・日野市侵略的外来種の選定
- ・市民による外来種情報の収集
- ・外来種の駆除活動
- ・飼育している生きものを放さないための普及啓発活動
- ・生活被害の防止対策の普及啓発、推進
- ・アライグマ防除実施計画の策定
- 生態系の保全【担当部署：環境保全課】
- ・有害鳥獣による農業被害の実態把握
- ・農業被害の防止対策の普及啓発、推進
- ・捕獲担い手確保のための狩猟免許取得者への支援
- ・生活被害の防止対策の普及啓発、推進

《 案 》

市と協議のうえ、担当部署
を検討

市が推進する既存の関連計画

【第5次日野市基本構想・基本計画】

- ・506 生活環境の保全

【第3次日野市農業振興計画】

- ・（3）魅力ある農業経営により日野農業を元気いっぱいになろう